

コミュニティ・スクール便り

No. 4



～生徒たち一人ひとりの学力の定着・向上を目指して～

清瀬第三中学校 副校長 渡辺 千寿

本校では、10月を「清三中授業スタンダード強化推進月間」と位置付け、授業改善に全教職員で取り組んで参りました。この取り組みは、本校独自で作成した「授業スタンダード」を全ての授業に置いて教員が確実に実施することで、生徒たちに授業の見通しを持たせ、生徒たちの「楽しい」を実現し、「もっと考えてみたい」と思う授業を実践していくことで、生徒の「考える力」を育てることを目指しています。

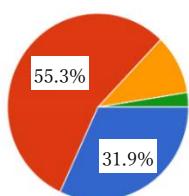
授業を参観しに来てくださった保護者や学校運営協議会委員の方々からは「授業のめあてを黒板に提示することで、この授業で何をするのかが生徒たちに分かりやすくなりましたね」「どの授業でも同じ色のマグネットシートを使ってめあてと振り返りを黒板に提示すると安心感が湧きますね」などのご感想をいただきました。また、教育委員会にも来校いただき、指導・助言をいただきました。授業をご参観くださった皆様からの有難いご意見やご感想を、今後の授業改善につなげて参りたいと思います。

下記は、「授業スタンダード強化推進月間」を行う前（9月）に実施した生徒アンケートの結果と行った後（11月）に実施した生徒アンケートの結果をまとめたものです。

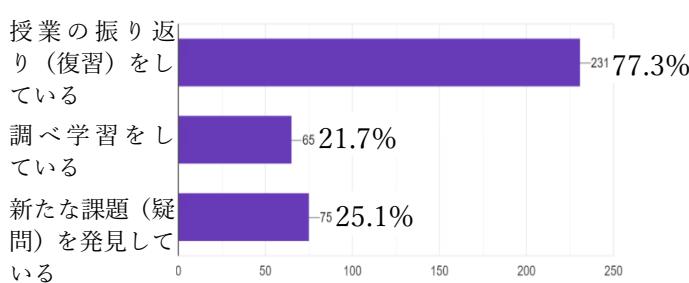


【9月のアンケート結果より】

「見通しがもてる授業」になっていますか？
320件の回答

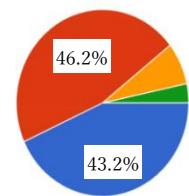


家庭学習について聞きます。当てはまるものをチェックしてください。
299件の回答

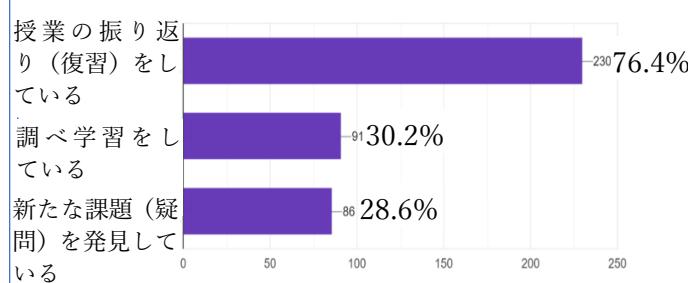


【11月のアンケート結果より】

「見通しがもてる授業」になっていますか？
301件の回答



家庭学習について聞きます。当てはまるものをチェックしてください。
301件の回答



アンケート結果（比較）からみてもわかるように、肯定的な回答の割合が増加し「子供を主語」（学習者主体）にした授業改善の効果が実証されていると捉えることができます。

【アンケート結果からみる考察】

成果

- 設問「見通しがもてる授業になっているか」において、「なっている」と回答した生徒が9月比+11.3%と大幅に増加し、「だいたいなっている」と合わせた肯定的割合も微増(+2.2%)しています。学習への見通しをもって取り組んでいる生徒が増加していることから、教員の授業改善への意識が高まっていると考えられます。
- 設問「家庭学習の場面について」に関し、「調べ学習をしている」生徒の割合が9月比+8.5%と増加し、「新たな課題（疑問）を発見している」生徒も+3.5%と微増していることから、学び方を工夫し、主体的に学習に取り組む生徒が増えていることがうかがえます。

課題

- 「授業に見通しがもてない生徒」も1割ほど存在しています。「誰一人取り残さない」という観点から鑑みると、ICT等を効果的に利活用するなどしながら、更に授業の導入を工夫する必要があります。
- 家庭学習の場面における授業の振り返り（復習）に関しては、肯定的割合が微減しています。基礎・基本の定着を確実に図るために学校と家庭の連携は欠かせないことから、教科等の中でも引き続き指導していきます。

生徒アンケートの結果及び分析については、今後発行する学校だよりにおいて更に詳しくお示します。どうぞよろしくお願ひいたします。